令和３年度

学校法人　笹田学園　　事業計画書

自　令和３年４月　１日

至　令和４年３月３１日

Ⅰ．法人の概要

本学園は昭和３年の浜松（服装）研究所設立より受け継がれてきた「技術の原点は心である」との建学の精神を継承し、「和する心」「敬う心」「質実な心」「美を求める心」の４つの心を校訓に掲げています。

昭和 3 年 4 月　創立者 笹田 栄により浜松市菅原町に設立
昭和 20 年 4 月　浜松市東伊場に移転する。
昭和 22 年　浜松で初めてファッションショーを開催
昭和 23 年 4 月　静岡県公認校となる。東京文化服装学院連鎖校となる
昭和 30 年 4 月　創立者 笹田 栄逝去。笹田陽子学校長就任
昭和 41 年 6 月　学校法人化。学校法人笹田学園となる。笹田陽子理事長就任
昭和 41 年 11 月 本館（現 4 号館）校舎完成
昭和 47 年 12 月 ろまん館校舎完成
昭和 50 年 7 月　創立３０周年記念式典挙行
昭和 51 年 3 月　専修学校法成立にともない、浜松初の専門学校となる(学校教育法第 82 条の 8)
校名を「笹田学園ファッション専門学校」に変更する
昭和 55 年 11 月 創立３５周年記念式典挙行
記念行事として「第一回 笹田グランプリ」開催
昭和 56 年 4 月　文部省指定向陽台高等学校技能連携校となる
昭和 58 年 2 月 「第二回 笹田グランプリ」(のちのデザインコンペティション)開催
昭和 60 年 10 月 文部省より大学入学資格付与校として指定を受ける
昭和 60 年 11 月 創立４０周年記念式典挙行。記念事業として未来館(現２号館)完成
平成元年 4 月　連携校向陽台高等学校が単位制高校として認可を受ける
平成 2 年 8 月　デザイン館（現１号館）完成
平成 5 年 6 月　運動場用地取得
平成 6 年 2 月　アート館（現３号館）完成
平成 6 年 4 月　男女共学となる。コンピューター分野学科を新設する
平成 7 年 1 月　専門誌称号付与校となる
平成 7 年 5 月　創立５０周年事業として専門課程校舎（現５号館）完成
平成 7 年 11 月 創立５０周年記念式典挙行
平成 9 年 2 月　「第十五回 笹田デザインコンペティション」開催
平成 10 年 4 月　校名を「デザインテクノロジー専門学校」と変更し、建築分野学科を新設
平成 10 年 9 月　建築実習棟（６号館）完成
平成 12 年 4 月　笹田栄一学校長就任
平成 14 年 2 月　「第２０回 笹田デザインコンペティション」開催
平成 18 年 2 月　創立６０周年記念式典挙行
平成 19 年 2 月　「第２５回 笹田デザインコンペティション」開催
平成 24 年 1 月　「第３０回 笹田デザインコンペティション記念行事」開催
令和 3 年 2 月　「第３９回 笹田デザインコンペティション」開催

学校法人　笹田学園　大臣認可年月日　昭和 41 年 6 月 21 日
〒432-8036　静岡県浜松市東伊場 1 丁目 1 番 8 号

設置する学校・学科等

デザインテクノロジー専門学校

専門課程	ファッションビジネス学科	平成 10 年度開設
	デジタルメディア学科	平成 10 年度開設
	建築学科	平成 10 年度開設
	プロ専攻科	平成 31 年度開設
高等課程	ファッション科	昭和 61 年度開設
	生活アート科	平成　6 年度開設
	建築デザイン科	平成 10 年度開設

設置する学校・学科の入学定員、学生数（令和３年４月１日現在）

設置する課程	設置する学科	入学定員	現員
専門課程	ファッションビジネス学科	１０名	９名
	デジタルメディア学科	２０名	３５名
	建築学科	２０名	４１名
	プロ専攻科	１０名	３名
高等課程	ファッション科	６０名	７７名
	生活アート科	８０名	１８５名
	建築デザイン科	４０名	４８名

役員の概要（令和２年末現在）

理事長	笹田　栄一
理事	笹田　富子
理事	鈴木　祐二
理事	伊藤　勝人
理事	塩谷　登女子
理事	瀧口　基雄
理事	内田　光
理事	橋本　光史
理事	高山　直久
監事	板倉　広亨
監事	千葉　信二

評議員	笹田　富子
評議員	山中　久美子
評議員	松本　敏明
評議員	浅井　恒志
評議員	十束　節郎
評議員	笹田　陽二郎
評議員	中本　悦司
評議員	水谷　秀雄
評議員	笹田　恵子
評議員	鈴木　祐二
評議員	村松　正之
評議員	山本　洋子
評議員	橋本　光史
評議員	豊田　茂
評議員	山内　清司
評議員	兼森　淳一
評議員	坂本　一史
評議員	野々山　訓弘
評議員	八代　拓人

教職員の概要

設置する課程	専任教員	兼務教員
専門課程	４名	１１名
高等課程	８名	２１名

Ⅱ．事業計画の概要

１．はじめに

学園を取り巻く環境は、少子化に伴いますます生徒確保が厳しくなり、各学校法人間での競争激化が予想されます。

本学園では「和する心、敬う心、質実なる心、美を求める心」の４つの心を校訓とし、「社会に通用する人材を育てる」を教育目標に掲げ、時代のニーズに対応した教育内容の充実を図り、更に学力の向上に努めて参ります。

特に、年間の教育計画を部署別及びコース別に、一層きめ細かく指導を実践するための年間指導計画書と授業報告書を策定します。

また、笹田学園の永続性を保つためには、新時代に即したカリキュラムの構築と、それに対応できる教育環境の整備が今後の大きな将来計画となるが、これには財政面の経営計画に基づく中で、健全な財政運営のもとに進めていくことが重大な課題となっている。

一方、財務情報公開の義務化により、時代を先取りした諸改革の実現をより確実にかつ一層促進する必要性が生じており、学校法人を取り巻く環境の変化に対応できるよう事務能力の向上にも努めて参ります。

なお、今年度もコロナウイルス感染症により、年間の授業計画や学校行事等に大きく影響がでることが予想される。各部署連携を取り、この国難を乗り切る計画を随時行っていく。

（生徒支援）

快適で安心安全な学校環境の整備を推進する。

小・中学校時の基礎学力が定着していない生徒へのフォローアップ体制の整備。

具体的に放課後の時間を使っての個別指導を行う。

（社会貢献）

地域の清掃や、専門分野の知識・技術を活かしたボランティア活動の推進など、多様な地域の諸課題解決に向けて共に行動する。

（運営）

不断に自己点検・評価を行い、効率的で機動的な学校運営に努める。

（生徒募集）
志願者数の確保に向けた募集力の強化のため、すべての学科・部署、すべての教職員がそれぞれの立場で、募集力の強化について考え、実行する必要があります。具体的には、入試制度の見直し、出願システムの構築、志願者動向調査システム、受験生への情報伝達、募集広告の見直し、中学・高校訪問の強化（生徒募集に向けた教職員の業務分担と役割の見直し）、体験入学・オープンキャンパスの強化等を図る必要があります。

（進路指導）
就職に関しては、昨年度から大分求人数が増え始めているが、新たな企業への訪問を進め就職先の開拓を続けていく。